

VCube のビデオキャプチャー

■ Pyramix と同時にビデオを記録する場合

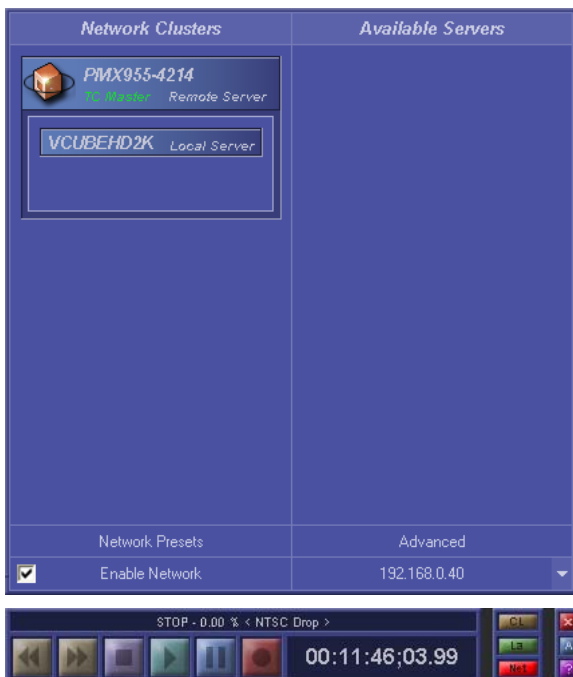
この文章は VCube を起動させた直後の状態から説明しています。

1. VCube を起動させ、「設定」の「プリセット」を指定のプリセットにセットします。



※ これで全ての「設定」の中の項目は、正しい設定となるはずですが、後述のページの事柄に注意してください。

2. Virtual Transport (バーチャルトランスポート) の [Net] を開き、ピラミックスを左のコラム、そのコラムの中に VCube をドラッグして入れてください。



これで、VCube は Pyramix からのリモートを全て受け付けるようになります。



3. 「レコード」の中、「イネーブルキャプチャー」と「V1」をクリックするとEEをPCモニター上で確認することができます。VTRをロケートさせてPLAYします。



4. ビデオファイルを録画するディレクトリーとファイルの名前を設定します。上図のオレンジの4画内の項目を直接キーボードとマウスを使って入力します。

5. PyramixをVTRにスレーブさせます。

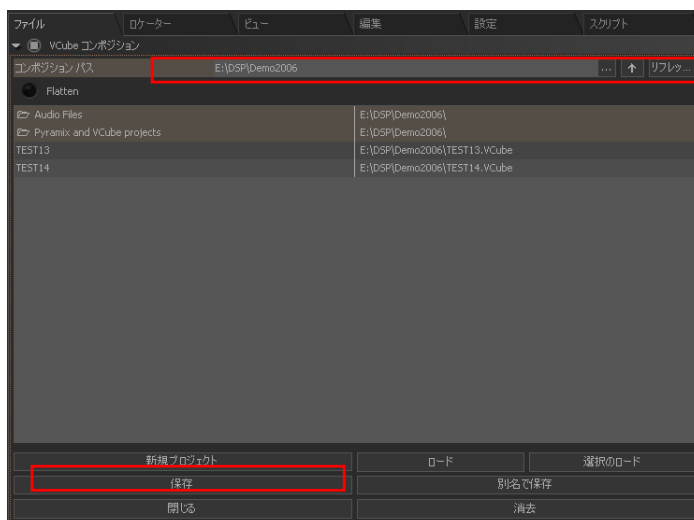
PyramixがLOCKすると、VCube画面上の[Chasing]が[Locked]に変わりますので、録画したい位置に来たらPyramixのRECキーを押し、録音+録画状態に入ります。

6. PyramixのPLAYキーを押し、録音+録画状態から抜けます。

7. VTRをストップします。

8. 「レコード」の中、「キャプチャーイネーブル」をクリックし、再生状態に入ります。

9. 「ファイル」の「コンポジションパス」をセーブしたいディレクトリーに設定し、



「保存」をクリックします。

初回の「保存」では、VCubeはファイル名を聞いてきますので、適当な名前を入力します。

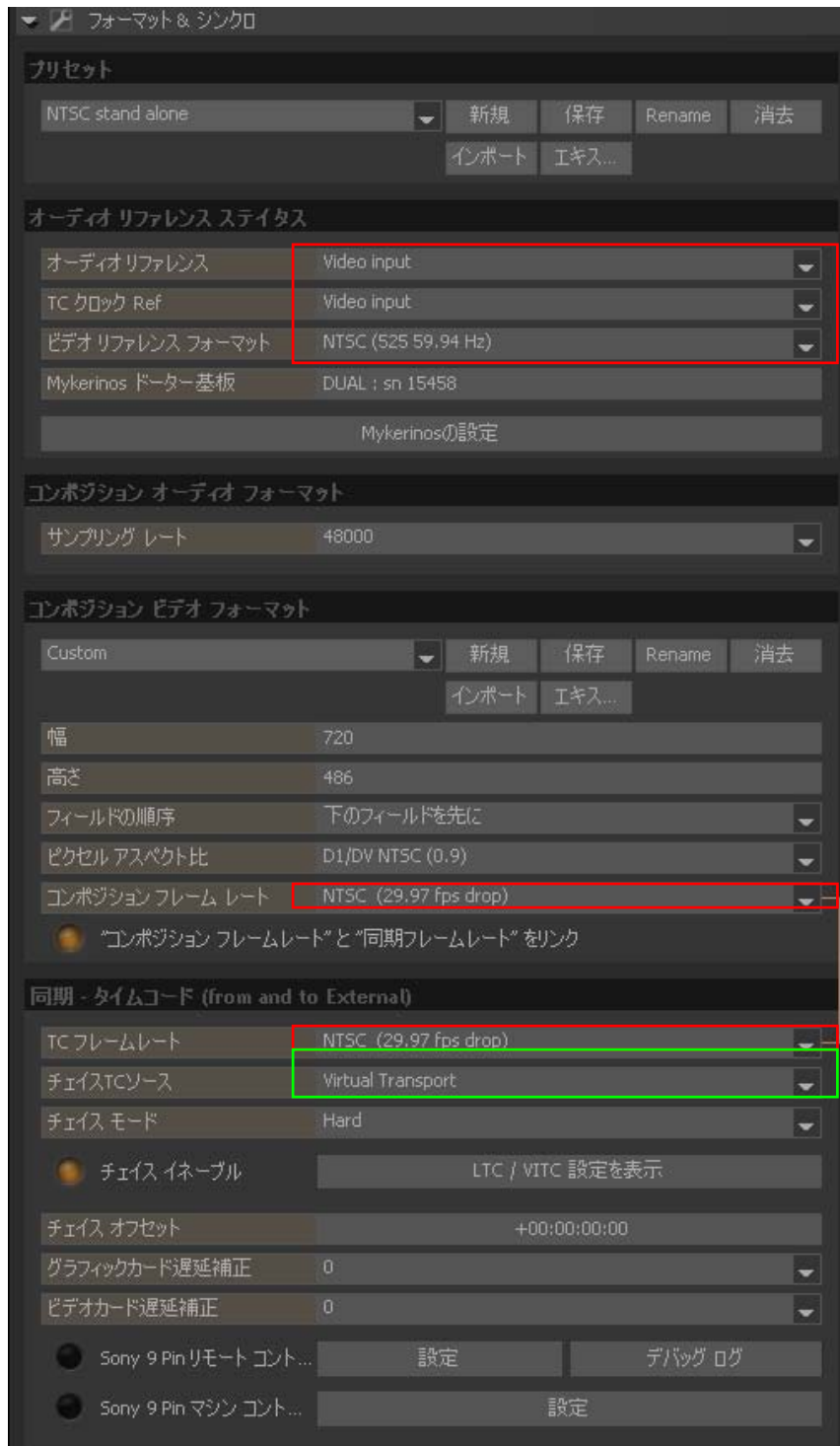
OKをクリックするとこのコンポジションは、同様のディレクトリーに保存されます。



D S P J A P A N

設定の注意事項 1

VCube は、非常に多くの作業環境に適応できるよう設計されています。そのため、設定も細かく変更することが可能です。この項では、NTSC 環境で使用する場合に、特に注意すべき点を挙げています。



オーディオを同時に録音する場合、リファレンスは Video input に設定してください。

タイムコードのドロップ/ノンドロップは、正しく設定してください。

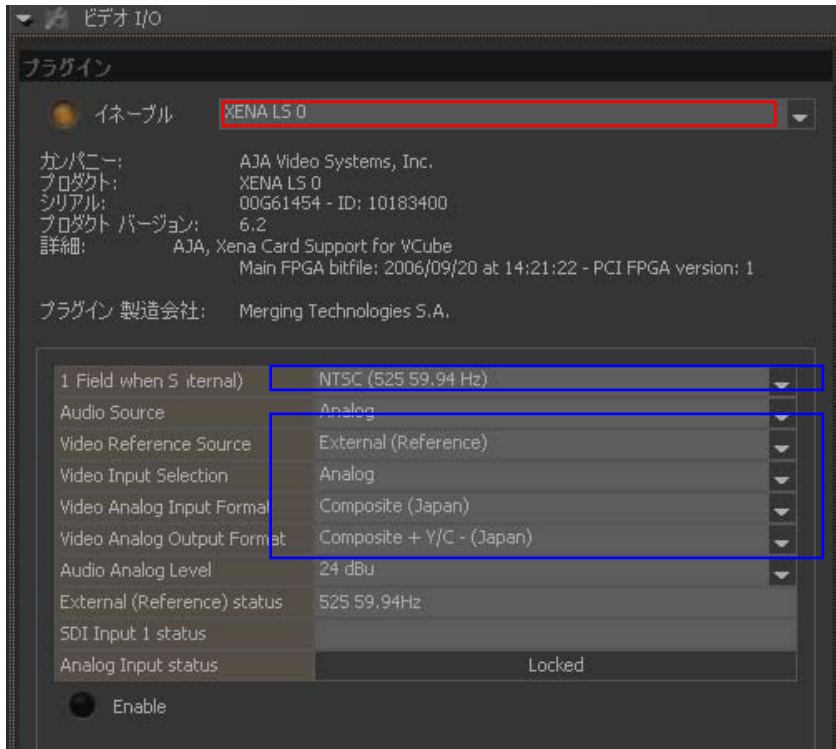
チェイス TC ソースを正しく設定してください。また、チェイス イネーブルをクリックし、オレンジ色にしてください。



D S P J A P A N

設定の注意事項 2

VCube は、数種類のキャプチャーボード（ビデオ I/O）をハードウェア プラグインとしてサポートしています。従って、キャプチャーボードの設定も正しく行われている必要があります。



正しいキャプチャーボードを選択し、イネーブルをオレンジ色にしてください。

全ての項目は、

- ビデオソースを NTSC(525 59.94Hz)
- リファレンスを External (Reference)
- ビデオ入出力を Composite (Japan) に合わせてください。